

20
21

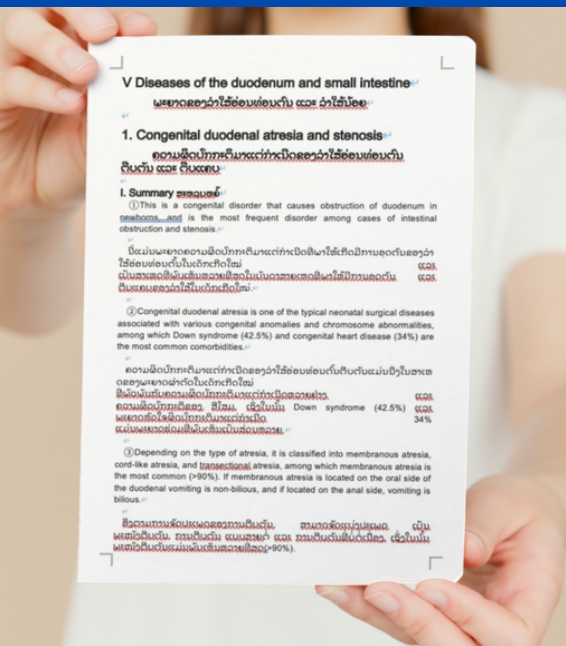
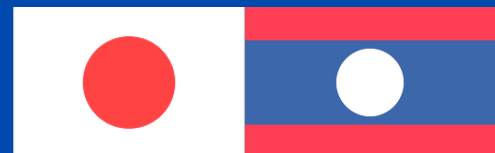
ラオス小児外科 プロジェクト

2021年度 事業報告



公益社団法人 **日本 WHO 協会**
FRIENDS OF WHO JAPAN

活動報告



デジタル教材の作成

ラオス語の教材は多く存在せず、知識を得るための手段が限られている現状があります。こういった面への支援も現地から熱い要望を受けて行っていることです。

2021年度は日本の教科書「最新新生児外科学」（編集：窪田昭男氏・奥山広臣氏）の英訳が行われ、現地の医師と協働のもとラオス語への翻訳が開始されました。2022年度も引き続きラオス語版の「最新新生児外科学」が作成を行い、ラオス語版の「最新新生児外科学」の教科書が完成される予定です。

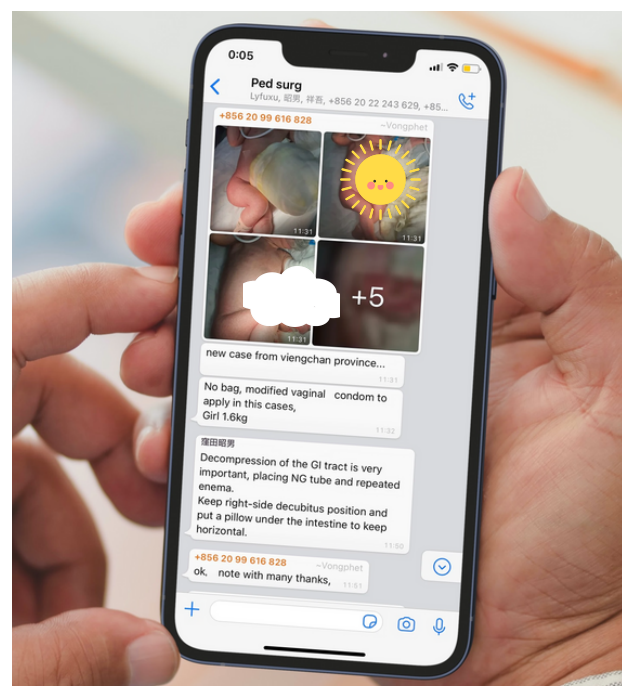
今後、我々がラオスと協働のもと作成したラオス語版の「最新新生児外科学」は、ラオスの小児外科専門医制度において、小児外科医養成に使用されていく予定です。

オンラインでのセミナーや症例検討会

2020年度に引き続き、計6科目15日間の講義が暫定指導医の養成を目的として実施されました。

2021年度よりラオスで開始予定だった小児外科専門医制度はCOVID-19の影響により延期となっていましたが、2022年9月に正式に開始予定です。これに伴い、専門医制度の一貫として、我々の支援のもとに行う専門医候補者向けのオンラインセミナーも2022年度より順次開始しております。

症例検討会については、2021年度は計4回開催されました。リアルタイムで検討が必要な症例について実施されたこともあり、症例検討会後にラオス人医師より症例の無事を報告を受けたこともありました。ラオス人医師とディスカッションし現地の状況を鑑みながらの支援ができる本活動を、今後は他職種を巻き込みながら行っていきたいと考えております。



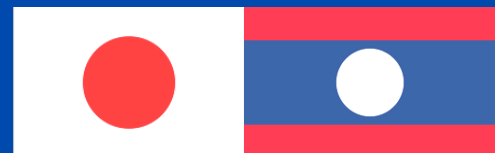
Remote Consultations Sheet		No.
At the time of consultation, please enter the necessary information according to the ISBAIR below and consult.		
If you have an inspection image etc, please attach it to the "images" part.		
If you do not enter it, the cell will be displayed in yellow. If you don't know, please write "Unknown" instead of blank.		
Consulter:	Date:	
Consultation Contents		
Identify	Name of Patient (or Mother):	Birth date (Age):
	Sex:	Other:
Situation	Chief complaint(s):	
Background	History of present illness:	
	Laboratory data:	
	Physical findings:	
	Other:	
Assessment	Speculated diagnosis:	
Recommendation	Speculated diagnosis:	

遠隔コンサルテーション

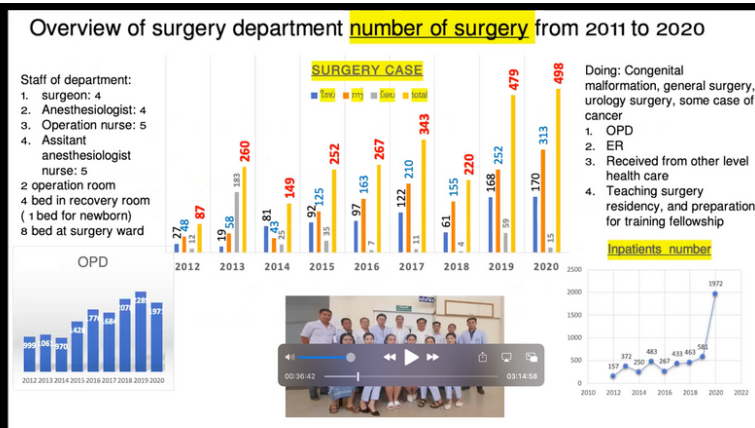
2020年度から日本人医師とラオス人医師の繋がりをもとに、自然発生的に行われるようになった遠隔での症例のコンサルテーション。2021年度はこれをシステム化し、運用していくことを目標とし活動を行ってきました。

小児外科医の養成という技術面での支援を主とするプロジェクトにおいて、遠隔のみでの支援を行うことは容易ではありませんでしたが、実際にリアルタイムで症例に関するやりとりをすることで、現地にいるに近い助言ができるだけでなく、これまで遠隔支援だけではわかりづかったラオスの実情や課題も明らかとなってきています。今後もこのシステムをより実用的かつ継続性あるものに進化させていく予定です。

活動報告



第2回小児外科国際シンポジウム



2021年度のテーマは「ラオスにおける出生前診断と周産期医療の現況と展望」と題し国際シンポジウムが開催されました。日本人医師からは日本の出生前診断と周産期医療の現況と展望、実際の症例、そして倫理的課題に関してが発表されました。ラオス人医師からは、ラオスの出生前診断の限界と必要性について、そして今後ラオスで周産期医療を発展させていくための道筋が明確に示されました。ディスカッションでは日本人医師とラオス人医師でラオスの出生前診断と周産期医療の課題を①技術面②倫理面③経済面の3方向からディスカッションが行われました。

小児外科の治療成績をあげ、新生児の死亡率を減らすためには出生前診断と周産期医療の発展は必須課題であり、この課題解決へ向けたラオス人の意欲が非常に感じられる国際シンポジウムとなりました。

2021年度会計報告（自己資金）

項目と内訳	金額
1. 一般謝金	¥1,681,333
講師謝金	¥1,180,000
講義原稿謝金	¥485,333
国外活動謝金	¥16,000
2. 旅費	¥1,620
3. 庁費	¥2,064,865
賃金	¥1,245,944
通貨運搬費	¥33,432
雑役務	¥785,489
総 額	¥3,747,818

2022年度予算表（自己資金） （2021年度繰越金含む）

項目と内訳	金額
1. 一般謝金	¥3,009,574
講師謝金	¥1,776,000
講義原稿謝金	¥1,163,000
国外活動謝金	¥70,574
2. 旅費	¥2,229,050
旅費（航空券代等）	¥1,261,000
宿泊費	¥775,000
保険料	¥193,050
3. 庁費	¥4,641,447
賃金	¥3,876,000
通信運搬費	¥81,427
雑役務費	¥684,020
4. 人件費相当分の損失補填	¥960,840
総額	¥10,840,911

2022年度の活動に向けて…

2022年度は、COVID-19の影響により延期となっていたラオスの小児外科専門医制度が正式に開始されます。また、勝井がプロジェクト・マネージャーとして2022年4月よりラオスに赴任し、より現地のニーズを捉えながら活動を展開していくことになると考えられます。さらには2022年5月よりラオスの国境が開放されたことを受けて、当初計画していた日本人医師の渡航も現実的なものとなりました。プロジェクト3年目となる今年、集大成となるような支援を行っていきたいと考えております。